

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 1月

「この日を神と共に」 「印する働き」 「清めの特別な働き」 「柚子まるごと煮」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「印する働き」

4

聖書の教え

### 朝のマナ

「この日を神と共に」

8

This Day with God

### 現代の真理

「清めの特別な働き」

40

清めの特別な働き

### 力を得るための食事

「柚子まるごと煮」

46

### お話コーナー

「バプテスマ」

48

イエスの物語

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

##### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2016年12月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty images on front cover;

Sermon view on pages 8, 40, Joe Maniscalco on back cover.

## 覚えているようにしよう

愛する兄弟姉妹がた。われわれは、キリストが間もなく来られることと、われわれは、罪の世界に伝えるべき最後のあわれみのメッセージを持っていることを、心から信じているだろうか。われわれの模範は、正しいものであろうか。われわれは、自分たちの生活と聖い行状とによって、われわれの卑しいからだをご自身の栄光のからだと同じかたちに変えてくださるわれわれの主、救い主イエス・キリストの輝かしい出現を待ち望んでいることを、周囲の人々に示しているだろうか。われわれは、これらのことを十分に信じ、理解してはいないのではないかと思う。われわれが宣言している重大な真理を信じる者は、その信仰を実行しなければならない。……この世に心を向けさせる物の追求が多すぎる。心は衣服のことに奪われ過ぎ、舌は、軽率でつまらぬ話をしすぎて、われわれの公言が偽りであることを示している。それは、救い主が天から来られることを待望しているながら、われわれの生活態度が天に向けられていないからである。……

われわれを正しい状態にするために、われわれのためにどれだけのことがなされたかを、わたしが自覚するとき、わたしは、あゝ、神のみ子は、われわれ哀れな罪人のために何という愛、何と驚くべき愛をもたれたのだろうかと呼びざるを得ない。われわれの救いのために、できる限りのことがなされているときに、われわれは、何も感じず、無関心であつてよいだろうか。……(初代文集 210～213)

預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思いついでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。……すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのであれば、だれひとりとして、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。(初代文集 149, 150)

## 19章 印する働き

終わりの時に、特別な清めの働きが、三天使のメッセージの中に表されている永遠の福音の宣布と共に開始しました(黙示録 14:6-12)。十四万四千人の神の僕たちは生ける神の印をもってその額に印されます(黙示録 7:1-4; 14:1)(出エジプト記 34:5-7 参照)。聖霊にあらゆる真理へと導き入れていただく人々は神の印を受けます(ヨハネ 16:13; コリント第二 1:21, 22; エペソ 1:13)。これは認めの上です(エゼキエル 20:20; テモテ第二 2:19)。

安息日を守って、第三天使のメッセージの信仰のうちに死んだすべての忠実な信徒たちは、144,000 人の一部であり、キリストの来臨前の特別復活において出てきます(黙示録 14:13; ダニエル 12:2)。これらの人々はこのお方の来臨を生き延び迎える聖徒たちに中に入っています。

律法の中に表された神のご品性が彼らの心に聖霊によって刻まれているように、彼らは真理のうちに聖化されています(イザヤ 8:16; エレミヤ 31:33; コリント第二 3:3; テサロニケ第二 2:13; ヨハネ 17:17 (詩篇 119:142 参照))。これらの条件が完全に合うとき、そのとき安息日遵守は、区別の上であると同様に聖化の上です。それはわたしたちを真の神の礼拝者として識別し、不従順の子らとは区別するのです(エゼキエル 20:12, 20; 出エジプト記 31:16-18; エゼキエル 9:4-6)。

獣の刻印は神の印の偽造品です。二つの主だった背教的な宗教・政治権力(黙示録 13:3, 4, 8, 11-17)が、いわゆるクリスチャン世界を、神の律法に抵触する人の作った法律をもって支配しようとするのです。そのとき、神に従う人々は激しい迫害に苦しむようになります(龍の怒り)。一方、神に不従順な人々は獣の刻印(偽造の日曜安息日)を受けます。そして彼らは最後の七つの災いにおいて獣と共に自分たちの選択の結果に苦しむこととなります(神の怒り)(黙示録 14:9-11; 15:1; 16:1, 2, 10, 11)。

黙示録 6:12-17 と黙示録 14:14-16 (マタイ 13:39 参照)を比較すると、印する働き、それには獣の刻印に対する警告が含まれていますが、それが終わりの時に関わるものだということが明らかになります。それは 1844 年から始まりま

した。

さらに詳細については、「神の民の印する働き」という書籍をご参照ください。

## 生ける神の印

「生ける神の印、すなわち神の民の額に押される印とは何であろうか。それは人の目には見えないが、御使たちの読むことのできるしるしである。なぜなら、滅びの天使がこの贖いのしるしを見なければならぬからである。知的な存在は、養子縁組による主のむすこ娘たちのうちにカルバリーの十字架のしるしを見てきた。神の律法の違反の罪は取り去られた。彼らは礼服を着て、神のすべての戒めに対して従順であり、忠実なのである。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 卷 968)。

「安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後のテストが人々にのしかかるとき、神に仕える者と神に仕えない者の区別が明らかになる。第四条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠を尽くすという表明であり、一方、神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の刻印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである。」(各時代の  
大争闘下巻 375)

「生ける神の印を受ける人々だけが、聖なる都の門をくぐるパスポートを得ることになる。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 卷 970)

「キリスト、ただキリストとその義だけが、わたしたちに天へのパスポートを下させるのである。」(終わりの日の出来事 283)

「墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて印された。」(初代文集 452)

「神が与えてくださった力を尽くして、十四万四千人の中に入るよう奮闘しようではないか。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 7 卷 970)

## 獣の刻印

「もし真理の光があなたに提示され、第四条の安息日が明らかにされ、日曜日遵守には神のみ言葉の中に何の基礎もないことが示されたときに、なおも偽り

の安息日に執着し、神が『わたしの聖日』と呼ばれる安息日を聖なるものとして守ることを拒むならば、あなたは獣の刻印を受ける。それはいつ起こるのであろうか。あなたが聖書の中に、日曜日が通常の労働日以外の何かになるべき言葉が一言もないことを知りながら、日曜日に労働をやめ、神を礼拝するように命じる法令に従うとき、あなたは獣の刻印を受けることに同意し、神の印を拒むのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7, 巻 980)

「真のクリスチャンはどの教会にでもいて、それはローマ・カトリックも例外ではない。だれも光が与えられ、第四条の義務を知るまでは罪に定められることはない。しかし、偽りの安息日を強制する法令が發布され、『第三天使』の大いなる叫びが獣とその像の礼拝に対して人々に警告するとき、偽物と本物の間にはっきりとした線が引かれる。そのとき、なおも不法を続ける人々は獣の刻印を受けるのである。」(サイン・オブ・タイムズ 1899 年 11 月 8 日)

「しかし、過去においては、聖書の安息日を守っていると信じて、日曜日を守ってきたキリスト者たちがいた。また、日曜日は神が定められた安息日であると心から信じている真のキリスト者たちが、今も各教会におり、ロ

ーマ・カトリック教会も例外ではない。神は彼らの真剣な心と神の前での誠実さを受け入れられる。しかし、日曜日遵守が法律によって強いられ、真の安息日を守るべきことが世界に明らかにされるその時に、神の戒めを破

って、単にローマの権威によるものにすぎないところの戒めに従う者は、それによって、神よりも法王教をあがめるのである。そのような人は、ローマに敬意を払い、ローマが定めた制度を強制する権力に敬意を払っている。彼は、獣とその像を拝んでいる。こうして、神がご自分の権威のしるしであると宣言された制度を拒んで、その代わりに、ローマがその至上権のしるしとして選んだものを尊重するときに、人々は、それによって、ローマに

対する忠誠のしるし、すなわち『獣の刻印』を受けるのである。こうして、この問題が人々の前に明らかに示されて、神の戒めと人間の戒めのどちらかを選ばねばならなくなるとき、それでも神の戒めを犯し続ける人々が、『獣の刻印』を受けるのである。」(各時代の争闘下巻 170, 171)

## 特別復活

「墓が開かれる。『地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさます

でしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」(ダニエル書 12:2)。第三天使のメッセージを信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。『彼を刺しとおした者たち』(黙示録 1:7)、キリストの死の苦しみをあざ笑った者たち、そして、キリストの真理とその民とに対して最も激しく反対した者たちは、栄光をまとわれたキリストをながめるために、また、忠実で従順な者たちに与えられる誉れを見るために、よみがえらせられる。」(各時代の犬争闘下巻 415)

「天から神のみ声が聞こえて、イエスのこられる日と時とが宣言され、永遠の契約が神の民に伝えられる。」(同上 418)

「やがてわれわれは、多くの水の音のような神の声を聞いた。その声が、イエスの再臨の日と時とをわれわれに知らせた。十四万四千の生きている聖徒たちは、その声を知って理解したが、悪人たちは、それを雷鳴と地震だと思った。」(初代文集 63, 64)

# この日を神と共に

*This Day with God*



1月

## 平安の約束

「あなたは全き平安をもってこころぎしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。とこしえに主に信頼せよ、主なる神はとこしえの岩だからである。」(イザヤ 26:3, 4)

新年おめでとう。不信とイエスの信仰の欠乏などというものをすべて永遠に捨て去ろう。感情に依存することなく信仰に依存することによって、子供のような単純な信頼の生涯を始めよう。

イエスの尊い約束を疑うことによって、このお方のみ名を汚してはならない。このお方はわたしたちに不動の信仰を持ってこのお方を信じることを望まれる。「信じる、信じる」と言い、服従という条件のもとに与えられている約束を何でも主張する部類の者たちがいる。彼らは神のみ約束のうちにあるすべてを主張するが、彼らはキリストの働きをしないのである。神はそのような信仰によって誉れを受けられない。それは偽りの信仰である。またわたしたちは神の戒めすべてを守ろうと努力している者たちを見るが、自分たちの高尚な特権に見合うことなく何も主張することがない多くの者たちがいる。神のみ約束はこのお方の戒めを守り、このお方の目に喜ばれることを行う者たちへ与えられたものである。……

わたしは信仰の良き働きを毎日戦わなくてはならない。わたしは信仰の力を最大限に働かせ、感情に依存することなく、主がわたしの祈りを聞いてくださったこと、またわたしに答え、わたしを祝福されることを知っているかのように行動しなければならぬ。信仰は感情の高揚ではない。信仰とは、神がそうなさると言われたので、ただ神のみ言葉をつかみ、信じることである。……

わたしはあなたがどのようにも落胆することのないように願う。……

神はあなたが自由になることを望まれ、信じる者となるように、信頼する者となるように、疑うことを止めて信じるようになることを望まれる。神様があなたを助けてくださるように。……わたしたちに新たな年が開かれている。それが喜ばしい新年となるようにしよう……。イエスのみ腕の保護のうちに休まりなさい。そして、このお方のみ腕から出ようともがいてはならない。ただ神を信じ、讚美し、前進しなさい。わたしたちはもうすぐ家に着く。

主は来られる。上を見あげ喜びなさい。なぜならあなたの救いが近づいているからである。わたしはイエスのうちに憐れみ深い、愛なる贖い主、このお方の許に来る者をいつも救うことができになるお方を見ることができ。あなたの重荷を全部神のみ約束の上におきなさい。信じるのがあなたの特権であることを信じなさい。(手紙 31, 1月1日, ヨーロッパにおいて初期の牧師の妻、マルタ・ブルジュウへ)

1月2日

## 一致する

「『彼における』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。」  
(ヨハネ第一 2:6)

多くの者は敵の魅惑の地にいる。重要性が最も少ない事柄—愚かな社交パーティー、歌を歌うこと、ふざけ、冗談が彼らの思いを夢中にさせ、彼らは分かれた心で神に仕えるのである。これらの事柄において、あなたがたの間には目に見えない者がいて助けている。恐ろしい歓喜で満たされたサタンが存在している。「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」というキリストの宣言は注意を払われていない(マタイ 6:24)。

キリストの昇天の後、聖霊は直ちに下らなかった。このお方の昇天の後聖霊が与えられる前に 10 日間あった。この時間は尊い賜物を受けるための最も真剣な準備のために弟子たちによって捧げられた。彼らが自分たちの心を懸命に探り、すべての偶像を犠牲にした後に、天の豊かな賜物は彼らに注がれた。彼らは神のみ前にあって彼らの魂を低くして、彼らの信仰を強め、彼らの罪を告白していた。そして彼らの心は互いに調和していた。「五旬節の日がきて、みんなの者が一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった」(使徒行伝 2:1, 2)。教会はこの働きを中心地〔1855～1903 年の間、当時本部であったミシガンのバトル・クリーク〕において同様の経験を必要としている。わたしたちは自分たちの心を探り、受けるべき天の恵みのために準備しているであろうか。主は恵み深くなることを待っておられる。

主はご自分の民にご自分を示されるが、彼らは主を求める働きに一致して携わらなければならない。……この時代にあつて前進させられるべき働きは最も重要なものである。それは生死の問題である。……

敵がこの厳粛な時にあつて娯楽と快楽という状態を持ち込み、むなしく些細な考えで思いを夢中にさせ、思いを満たすことによって神と永遠または天についての余裕がなくなるようにすることを〔許してしまう〕のであろうか。(原稿 38, 1890 年, ミシガン、バトル・クリークにおける日記 1890 年 1 月 2 日)

## 天への門口

「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18:20)

言いひらきをすべき者として、他の魂のために働き見張り祈りなさい。今年、悪のための主が処方された治療を試して見なさい。各自は主がするように要求なさることを、すべての魂の所有者であるイエスを見上げながらするようにしなさい。  
.....

自分たちで聖書を学ぶために小さなグループで、夕にあるいは早朝と一緒に集まるようにしなさい。祈りの時を持ち、彼らが聖霊によって強められ啓発され聖化されるようにしなさい。.....

もしあなたがこれを行うなら、奉仕のために全生涯を与えられたお方、ご自分の命によってあなたを贖われたお方から大いなる祝福があなたに来るであろう。あなたは聖霊の力を持たなければならない。そうしなければあなたは勝利者となることはできない。神の祝福を求めるこの尊い時において、あなたは自分の共労者と培った愛情深い親しみについてどのような証を担うべきであろう。各自が単純な言葉で自分の経験について話すようにしよう。.....

すべての信者の働きは活動的である。それは日ごとの戦いである。キリストは.....「あなたがたはわが証人」とであると言われる(イザヤ 43:10)。それを考え、それを語り、それを実行しなさい。天はすぐ門口にある。天に向かって扉を開き、地上に向かって扉を閉めなさい。.....あなたはこのお方の声を聞き、イエスに心の扉を開くだろうか?あなたはあなたのためにご自分の命を与えられたお方を愛するだろうか。

聖書を学ぶために小さなグループで互いに会うようにしよう。あなたはそうすることによって何も失うことはないどころか、多く得るのである。神の御使はあなたの集会のうちにおり、あなたが命のパンによって養われるとき、あなたは霊の腱と筋を得るであろう。あなたはいわば命の木の葉によって養われるのである。このような方法によってのみあなたはあなたの誠実を保つことができる。イエス・キリストへの忠誠は最も尊い報酬を保証する。一人一人の魂が永遠の命のために奮闘し、キリストを言葉と精神において認めよう。このお方はあなたとわたしを天のみ父の前で喜んで、心から、快く認めて下さるとご自分の言葉をもって誓われた。これは奮闘する価値があるのではないだろうか?あなたの生活のすべての面において原則に正しくなり、道徳的に腐敗することなく保たれるためには個人的に何が出来るか検討して見なさい。そうすることによってあなたはこのお方の栄光を見るであろう。(手紙 2, 1900年1月2日, シスレー兄弟と姉妹へ)

1月4日

## 土を耕す

「地が芽をいだし、園がまいたものを生やすように、主なる神は義と誉とを、もろもろの国の前に、生やされる。」(イザヤ 61:11)

神の生ける託宣である「こう書いてある」は人間が霊的命を得るために食べるべき命の木の葉である。わたしたちが主イエス・キリストのみ言葉を食うとき、それらはわたしたちにとって永遠の命となるのである。「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」とこのお方は言われる(ヨハネ 6:63)。キリストから来る回復させる生き生きとした流れは、罪が生み出した傷を癒すのである。

「いつくしみふかき友なるイエスは  
罪とがうれいを取り去りたもう  
心のなげきをつつまずのべて  
などかはおろさぬおえる重荷を」

他の者たちがどのような進路をたどろうとも、わたしたちは個人的に恐れおのいて自分たちの救いの達成に努めなくてはならない。なぜだろうか。なぜならあなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。そう、ご自分のみ名の栄光のためにこのお方は、もし彼らがこのお方が働くのを許すのならこのお方の目に偉大な価値がある人間の思いと心に、働きかけられるのである。

人が墮落したとき、神はサタンの計画を打破する働きを始められた。神は人のうちに働かれる。「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一 3:9)。はじめに主は人に地を耕すことを命じられた。この働きは神の律法を犯したことにより、さらに難しいものとされた。違法により人は自分の現在と永遠の善に反して働いた。地は人間が不従順を通してサタンに人の心に悪の種をまく機会を与えたことによって、のろわれた。はじめは良いものだけを生産していた地は、毒麦を生産するようになり、それらの発育は絶え間ない戦いを要求した。

土の耕作は人が霊的教訓を学ぶことができる学校である。土を耕すことによって、人が人間の魂への神の働きを鏡に反射しているように見るべきである。神の耕作は完全をもたらす。もし神との結合のうちに働きが前進するなら、人間の代理人はキリストを通して、日毎に戦いにおいて勝利と誉れを得るのである。与えられた恵みを通して、彼は勝利し有利なところにおかれるのである。(手紙5, 1900年1月4日, コルコード兄弟へ)

## 神なるあなたはわたしを見られる

「そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。」(ヘブル 4:13)

真理の勝利は働き人たちが、どこでも神の永続的なご臨在を自覚しているときにのみ可能である。彼らは家庭生活または人々の間におけるすべての言葉、すべての取引への忠実な証人がおられることを常に悟るべきである。考案されたすべての計画、なされたすべての努力においてキリストが導かれるべきである。すべての会議において教会員達は幕が取り除かれているかのように、また自分たちが全宇宙の面前で働きの取引をしているのを見ているかのように話し、行動すべきである。なぜならこの場合は事実なのだから。全天は働き人に目を注いでいる。活動的戦いのために計画するにあたり、自己が目立つことがないようにしよう。それはキリストのうちに隠され、完全に隠されなければならない。……

ふるわれることができるものはすべてふるわれ、ふるわれることができないものだけが残る。

主は分かたれていない愛情をわたしたちに求められる。もし人が真心でなければ、彼らはテストと試みと試練の日に失格者となる。敵が全軍をあげて彼に敵対するとき、戦闘が激しくなっていくように見えるとき、敵に反撃するための知力と能力のすべての力と、賢い指導力のすべての機転が必要とされる時、本心ではない者たちは自分たちの武器を自分自身の兵士に対して向けるのである。彼らは戦いのために強くすべき手を弱める。神は彼らがもろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊によって激しく圧迫される時、主の戦いを戦う頼りとするところができるかを見るために、神は真理の知識を持っているすべての者たちを試みられている。危険な時代はわたしたちの前にあり、わたしたちの唯一の安全はこのお方の御心を行うために自分自身をこのお方にまったく屈服させ、このお方のみ顔の輝きのうちに歩むことによって(ペテロ第一 2:9)、日毎に神の改心させる力を持つことにある。

わたしたちが契約の地の境界線にいる今、だれも不忠実な斥候の罪を繰り返さないようにしよう。彼らは自分たちが登って行った地が良い地であることを認めしたが、彼らはその住人は強く、巨人がそこにいて、比べると自分たちはイナゴのように彼らの目にも自分たちの目にも見えたことを宣言した。すべての困難は克服することのできない障害物へと誇張された。……このように彼らは自分たちの疑いによって会衆全体に影響を及ぼした。(原稿 6, 1892年1月5日、「キリストの隊列で働く」)

1月6日

## 争闘の終結

「よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。」(マタイ 5:18)

キリストが働きを始められたとき、サタンはこのお方に会い、毎センチごとにこのお方と戦った。このお方を征服するために彼のできる限りの力を尽くした。多くのことがこの闘争に入り込んでいた。大事な利益が危険にさらされていた。「神の律法は不完全で、正される必要があるか、もしくは破棄される必要があるだろうか。それともそれは不変だろうか。神の政権ははっきりしているだろうか。それともそれは変更される必要があるだろうか」というのが答えられるべき質問であった。神の都にいる者たちの前だけではなく、全宇宙の住民の前で、これらの質問は答えられなければならなかった。……

かいばおけから十字架までサタンは神の御子を追跡した。試みがこのお方の上に暴風雨のように打ちつけた。しかし、戦いが激しくなるほど、このお方は人が悩まされる試みを知るようになり、誘惑されている者たちを救うのにより準備がおできになった。

キリストが通られた試練の激しさは、ご自分の成功あるいは失敗によって得られるものの価値に比例していた。単に一世界の利害に関わる問題ではなかった。この世界が戦場だったが、神が造られたすべての世界はその争闘の結果によって感化された。……サタンは自分が宇宙の自由のために働いているかのように見えるように努めた。キリストが十字架にかけられている間でさえ、彼は自分の主張を、非常に多岐にわたり、非常に欺瞞的で、とても狡猾なものにし、こうしてすべての者に神の律法は専制的であると納得させようと決心していた。キリストの上に苦悩をもたらすために彼自身がすべての陰謀を企て、すべての悪を計画し、すべての思いをあおった。彼自身が善だけを行われたお方に対して偽りの告発を起こした。彼自身が純潔で、聖なる、罪なきお方であられる神のみ子の苦悩に加える残酷な行為をするようにさせた。

この行動計画によってサタンは自分が縛られる鎖を造ったのである。全宇宙は彼を罰することにおける神の正義の証人となる。彼が天にいたら、天がどのようなものになるかということをついで天自体が目当たりにした。……

単にこの世界にいる幾人かの死すべき被造物の思いの中にだけでなく、全宇宙のすべての住民の思いの中において神の律法の不変性が確立されたのである。……声をそろえて彼らは神を義なるお方、憐れみ深く、自己否定的な、正義なるお方として讃美した。(原稿 1, 1902 年 1 月 6 日「神は公正」)

## 約束を感謝する

「人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。」(エペソ 6:6, 7)

わたしたちの一生の仕事において互いにまたこのお方と一つになるようにという、キリストの祈りに答えるために常に励もう。何事をはじめににあたっても「これはわたしの救い主を喜ばせるだろうか。これは神のみ旨と調和するだろうか」と問おう。キリストのご生涯を日常の経験に持ち込んでいるという意識は、神聖な尊厳を与える。わたしたちのすることすべては、主人であるお方が誉れを受けることができるように忠実になされなければならない。そのようにわたしたちは、彼らに来るべき世におけるさらに高い生涯へ準備することによって、また彼らにこの生涯における奉仕へのたえず増し加わる能力を与えることによって、キリストの信仰が罪深い人間のために何を達成することができるかということ世に示すのである。(原稿 1, 1903 年 1 月 7 日「嘆願」)

わたしは主をほめ讃える。今朝わたしは四時まで寝た。夜の間、いつものように目覚めることがなかった。これはわたしにとって大きな祝福であり、わたしはそれについてとても感謝している。わたしは、自分たちの特権よりはるか下の方で動きまわっている神の民の霊的狀態を考えている間中、重たい重荷を負ってきた。わたしはわたしの天の救い主にわたしたちを助け、断固としてメッセージを担う使命者を起こしてくださるようにと嘆願しながら床の上で目覚めた。「あなたのみ言葉は真理であります」(ヨハネ 17:17)。聖霊によって感動させられた心からあふれることを口が語るようにと、わたしは体力と能力を切望する。

夜の幻のうちでたびたびわたしは大きな集団に話しており、力強い嘆願のうちにわたしは「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう」と繰り返してわたしの前にいた集団に勧告していた(コロサイ 3:1~4)。

何という豊かな約束がわたしたちに差し出されていることであろう。そうであるならわたしたちはこれらの約束を感謝していることを示し、まったく真剣になるまで、またそのような保証について感謝するまで働こう。わたしたちが上なるものを求めていることを示すことはわたしたちにとっても益であり、わたしたちがすべての公の働きにおいて交わるすべての者たちにとっても益なのである。(原稿 173, 1905 年 1 月 7 日日記)

1月8日

## キリストの謙遜

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。」(ヤコブ4:8)

主は長く人を忍ばれ、彼らが自分たち自身の判断に従う決心を明らかにするとき、主は彼らにそのようにすることを許される。墮落した人間の最高の状態においてさえ、彼の弱さと無知をわたしは見せられてきた。人がさらに深く深く学び、主のみ旨と主の道の学びにおいて向上することによって、彼は自分の無知をさらに見、そのように彼ははじめから明らかに進歩したことを示すのである。

クリスチャンが神に近く生きれば生きるほど、ますますその思いは神聖な啓発のうちに進歩する。彼は自分自身の小ささのはっきりとした感覚をさらに持ち、自分の品性の欠点に気づき、神が与えられた光のうちにある自分の働きを見るのである。キリストに近づけば近づくほど、ますます以前は気づかなかった自分の欠点について密接で明白な感覚を持ち、彼は神の力強いみ手のもとで自分を低くする必要を見るのである。もし高くされたならそれは彼が自分自身を高くし賞賛するからではなく、主が彼を賞賛されるからである。彼は自分の目をキリスト・イエスの純潔と完全さの上に留め、すべての道で神を認め従い、自分の失敗や不完全さに目がくらんでいないのである。彼の態度が人の目において潔白で非の打ち所がないとき、神は心の志と目的を読まれるのである。

クリスチャンの謙遜は素晴らしい恵みである。それはまさにサタンの背教一清くない野心とサタンが企むことができるあらゆる惑わしをもつもの一に対する防御手段である。キリスト・イエスによる謙遜の恵みは不完全な人を自分の不完全さを識別するようにさせ、神がすべてにおいてすべてである聖徒の相続にふさわしい者とさせる。……

主はあなたの進路を譴責してこられなかったであろうか。……あなたは大いに向上させ、神の訓練のもとに有効なものとするのできる能力を任せられた。それならこのお方の義はあなたの前を行き、主の栄光はあなたの報いとなる。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」とキリストは言われる(ヨハネ15:5)。もしあなたが主の勧告を無視するなら、あなたは危険の中にいるのである。(手紙21, 1892年1月8日)

## 美しい衣

「シオンよ、さめよ、さめよ、力を着よ。聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。」  
(イザヤ 52:1)

夜の間わたしは……二年前にニューヨークのサラマンカにおいて経験したのと同じような経験をした。わたしが始めの短い眠りから目覚めたとき、光がわたしの回り一面にあるように見え、部屋が天のみ使いによって満たされるように思えた。神の霊がわたしにくんだり、わたしの心はあふれるばかりに満たされた。ああ、何という愛がわたしの心のうちに燃えていたことだろう。わたしは声を出して、「主なるイエスよ、わたしはあなたを愛します。あなたはわたしがあなたを愛することを知っておられます。わたしの天の父よ、わたしは心からあなたをほめたたえます。『神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』(ヨハネ 3:16)。『正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる』(箴言 4:18)。わたしのあがないの主であり父の代表者であられるイエスよ、わたしはあなたに信頼をおきます」と叫んでいた。

わたしの平安は川のように、わたしは神と共にわたしの起きている時も、眠っている時もずっと素晴らしい交わりのうちに閉じ込められたように思われた。何と高く聖なる特権が、イエスの愛のうちに、そしてこのお方の命と保護のうちにわたしのものであるように思われたことであろう。……

ああ、なぜキリストの教会が起き、美しい衣を着ないのであろうか。なぜ教会は輝かないのであろうか。そのような弱々しいキリスト信仰の原因は、真理を信じると公言している者たちがキリストの知識を少ししか持っておらず、このお方が彼らにとって何になってくださるか、また彼らはこのお方にとって何になることができるかということについてとても低く評価をしているからである。わたしたちはこれまで死すべき者に委ねられた中で最も厳粛で、重い真理を持っているのである。

わたしたちの言葉、わたしたちの思い、わたしたちの行動がもっと清く高尚で、わたしたちが公言している聖なる信仰にもっと一致するなら、わたしたちは自分たちの責任をまったく違った光のうちに見るであろう。これらはなんと厳粛に、なんと神聖に見えることであろう。わたしたちはもっと深いわたしたちの義務感を持ち、神の畏れのうちにまったく清くなることをわたしたちの変わることをない目的とするべきである。地上の一時的な事柄は、天の永遠の事柄に従属するのである。……

わたしはどのような形でも神とつながる特権を感謝している。わたしはとても名誉に思う。わたしが求めることはただ主が憐れみといつくしみによって、わたしにこのお方の奉仕において使うための力を与えてくださるということである。(手紙 20 a、1893年1月9日、C、エルドリッジ船長へ)

1月10日

## 無気力の対策

「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」(ローマ 1:16)

人の救済への神のご計画には欠陥がない。もし福音がすべての魂にとって救いに至らせる神の力ではなかったら、それは福音に落ち度があるのではなく、人が実際には信徒ではなく、実際にはキリストの恵みと義を受けていないからである。……自称信者はキリストを彼らの個人的な救い主とすることをせず、非常に遠くからイエスについていくのである。この個人的宗教の欠如の一つの理由は、彼らがこれらの不可欠な原則において教育されてきていないからである。

わたしたちの教会においての無気力と無関心の他の原因は、若い教会員がキリストの軍隊における忠実な兵士としてどのように働くか忍耐深く、根気よく教えられていないからである。……

多くの者たちは真理の基礎原則を理解するために深く掘り下げることをしないまま真理を受け入れ、それが反対されると、彼らはそれを支える議論と証拠を忘れるのである。真の変ることのない知識は、真剣な骨折りと根気よい労力によってのみ得ることができるということが、すべての者に印象づけられるべきである。民の思いが聖書の徹底的な研究によって訓練のもとにおかれるなら、今日1人しかいないところに真理に改心した者たちが100人いるようになるであろう。……

多くの者たちは罪人が神の許に來てこのお方の前で義とされる方法について、異教徒と同じぐらい無知である。彼らは自分たちの無知について何の言い訳もない。なぜなら靈感を受けた託宣は次のように宣言しているからである「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます」(詩篇 119:130)。「主を恐れることは知恵のもとである」(箴言 9:10)。……

キリストとこのお方のみに基礎をおいていない宗教経験は、無価値である……知力のある人々は救いの計画の明白で聖書の提示を必要とする。単純と力のうちに彼らに真理が提示されるようにしよう。もしこれが注意を持たせ、興味を起こさせないなら彼らは天と神聖な事柄に興味を持つことはできないのである。すべての会衆の中で満足していない魂がいる。安息日ごとに彼らはどのように救われるか、どのようにクリスチャンになるのかということを説明している具体的な何かを聞くことを求めている。彼らにとって知るべき重要な事柄は、罪人がどのように神のみ前で義とされることができるかである。(手紙 23a, 1893年1月10日, E. H. ゲイツ兄弟へ)

## まず第一に和解する

「だから、祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行ってその兄弟と和解し、それから帰ってきて、供え物をささげることになさい。」(マタイ 5:23, 24)

わたしたちの義務が明白に定められているとき、どうしてそれほど多くの教会員が率直な「主はこう言われる」に反して、自分たちの困難について、それらに関して何も知らず、またその困難に関わっている人々についても何も知らない者たちに語るのであろうか。偉大な教師であられるイエスは、わたしたちの義務が何であるかを教えられた。わたしたちがこの義務をやり残し、ねたみ、悪い憶測、嫉妬がわたしたちの魂を占領し、わたしたちの一致と幸福を損なわせるがままにするなら、わたしたちの捧げ物、わたしたちの祈りは神に受け入れられない。ああ、もし信者たちが悪い考えや悪い話を防ぐためになされなければならないとキリストが言われた働きを取り上げるなら、どんなに多くの不幸が防がれ、どんなに多くの悪い思いが消されることであろう。

簡単な説明の言葉によって、それまで敵対し苦い感情を抱いていた者たちの見解を全面的に変えることがある。わたしたちは心からすべての不和を捨て去り、わたしたちの心がキリストの霊によってやわらかくされまた抑えられるようにしていただくまでは神の律法に従順になることはできないのである。わたしたちの祈りはわたしたちの心の誇りによって、過ちを告白し誤った印象を取り除くことを拒むことによって妨げられるのである。

わたしたちは自分の力の限りを尽くして、自分の隣人あるいは兄弟の足の前からつまずきの石を取り除くべきである。わたしの息子〔エドソン〕よ、あなたに可能な限り譲歩しなさい。苦しい思いをしている人に、へりくだりとやさしい関心を増し加えれば取り除くことのできる誤解を残してはいけない。サタンは確実にその思いに、曲解し些細なことを大げさに言うようにする誘惑を持ってくるであろう。傷ついた感情にたやすくつまずく思いは、あらゆる誤った見解を呼び出すのである。

主なるイエスはお自分の一人ひとりの「幼な子たち」に何をすべきかという特別な指示を与えられた。わたしたちが「わたしたちに負い目ある者をわたしたちが許すごとく、わたしたちの負い目をも許したまえ」と祈るとき、この祈りに答えるために、わたしたちの分を果たすだろうか。……もしわたしたちの兄弟がわたしたちにうらみをいだいているなら、わたしたちは神のために持ってきた捧げ物を祭壇の上において、わたしたちの兄弟と和解しなければならない。それからわたしたちは来てわたしたちの捧げ物を捧げるのである。これはわたしたちの心のうちに神の平安を保つことのできる唯一の方法である。(手紙 12, 1903年1月11日、エドソン・ホワイトへ)

1月12日

## 仕事中に眠ってはならない

「人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの口から言葉を聞いた時に、わたしに代って彼らを戒めなさい。」(エゼキエル 3:17)

神はあなた方一人ひとりに勤めの場所を与えられた。このお方はあなたに忠実な見張り人になるだけでなく、徹底的な働き人となるように要求される。決して無関心になったり、決して不注意で怠惰になったり、決して自分の持ち場において眠ったり、またあなたに要求された義務をあなたに任せられた立場にしたがって行うことを決して怠ってはならない。

積極性、機敏さが必要であり、なお一層の熱心な活力、深い関心、動くことのない忠実が必要とされている。義務の要求があると真つ先に働きに携わることを学ぶべきである。わたしたちの働きのために割り当てられた時間がどのくらいあるかはわからない。これは賢明な目的のためにわたしたちから神によって隠されている。しかしいつでもわたしたちは、神に言いひらきをすべき者としてそれを用いなければならない。ああ、不注意で、怠惰で、無知な思いを神の律法に精通させるために目覚めさせ、また彼ら自身の利益また神の栄光のためにこれらの律法へ服従する必要性を感じさせるためには、どんなに多くのことがわたしたちの世においてなされなければならないかを真剣に考え、永遠に照らして考えてみなさい。なぜなら違法は大きな苦悩をもたらすだけではなく、この世における命を失わせ、来るべき世での不死の命を失わせるからである。あなたはこのことについて徹底的に考慮し、どんなに多くの男女の幸福あるいは苦悩があなたにかかっているかを実感しなさい。

あなたの側での忠実さは多くの魂を救うが、怠惰や不注意はあなたの同胞である被造物にとって現在と将来の命の両方の損失という結果になるかもしれない。あなたは自分の持ち場において目を覚ましていることによる自分の忠実さによって、多くの不幸と神の律法への多くの違反を防ぐことができる。……わたしたちは一致して、また神の力と力強さによって起き、現在における必要へわたしたちの感覚を開かなければならない。……

神がご自分の光とご自分の恵みを、知識の欠乏に苦しんでいる者たちの益のために定めてくださった通路を通して注いでくださるよう、信仰のうちに叫びなさい。誤りを抑え、また浪費と流行の誤りに対して警戒するために祈り、真剣に勤勉に見張るかたわら、あなたのすべての働きを祝福するために自分のものとする事ができる力を生ける信仰によってつかみなさい。あなたは光と知識と力を集めることができ、あなたの影響は広がるようになる。……あなたが負うすべての責任はあなたを堅固にし、あなたが新たな努力を払い、働きを成功のうちに進めるよう力づける。(手紙 4a, 1879年1月12日バトル・クリーク療養所の二人の若い医者たちへ)

## 天への代理人

「最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。」(ペテロ第一 3:8)

やさしさと穏やかさを培うことがどれほど大いに必要とされていることであろう。だれも優しさにあわれみ深い精神を、過ちを犯した者のために表すことを、また、自分は間違いを犯すことがないと考えているが、神のみ前において誤りの無い状態からは程遠い者に対して示すことを恥じるべきでない。だれも憐れみを示すことは何か恥ずべきことであると考えする必要はない。……

どの魂の生活においても危機が到来し、他の者が彼に忠告しようと試みるとき、その忠告と勧告はその魂にとって忠告者がそれまで積み重ねた模範と精神の良い影響しか及ぼさないのである。矛盾のない生活、危機に直面した魂への心からのキリストのような関心の表れが安全な道へ説得し、勝ち取るために勧告を効果あるものとするのである。他の者たちを非難するのに速い者、すでに傷ついた魂を切り、傷つける言葉を語る者はサタンの働きをしているのであり、闇の君の共労者なのである。……

誘惑され試みられた魂は懲らしめが降りかかってくる時、彼らを死から救われるのは主であることを思い出させよう。譴責された魂に「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする」ことを思い出させなさい(黙示録 3:19)。

キリストの霊を吹き込まれた人間の代理人は、神に言いひらきをすべき者として魂を見守る。キリストのご要求はわたしたちの上であり、わたしたちは自分たちの義務を理解し、神の栄光だけに目を向けて神への畏れのうちにそれをなし、不忠実であってはならない。自己についての思い、生来の感情の思いが大切にされて唇を閉じることのないようにしなさい。語りなさい。そして恐れてはならない。やさしさと魂への愛によって満たされた心によって、警告し、励まし、懇願しなさい。

希望が一筋でもある間は、魂のために働くことを止めてはならない。あなたの言葉は魂を切り裂くかもしれない。ああ、それなら注意深くなり、それをイエスの愛とやさしきで覆いなさい。すべての口調を愛と同情で和らげなさい。……あなた方が他の人々を扱うように、またあなた方が彼らを判断するように、主はあなたを扱われ、また判断される。神の子であると公言する代理人がキリストの教訓を実践するようにしよう。彼が傷つけざるを得ないとき、癒す義務が必須なものとして自分に負わされていると感じるようにしなさい。真理はキリストの霊が宿っている魂をもって、常に愛のうちに語られるべきである。(手紙 70, 1894年1月13日「レビュー・アンド・ヘラルドの事務所において責任ある地位にいた親愛なる兄弟」へ)

1月14日

## あなたはこれまでに求めたであろうか

「主はおのれを待ち望む者と、おのれを尋ね求める者にむかって恵みふかい。主の救を静かに待ち望むことは、良いことである。」(哀歌 3:25, 26)

主はわたしたちが受けることができるように、わたしたちに求めることを望まれる。天のみ使たちは真剣な嘆願を待っており、彼らは飢え渴いた魂に近づく。そうであるならあなたの魂のすべてが神に向かうようにさせよう。主を待ち望め。天のみ使たちは、他の者たちを啓発するために金の器に流れ込んでいる金の管に自分たちを注ぎ出すのである。もしあなたが信じて求めるならば、あなたはそれを受けるであろう。決して、決して金の油を欠乏させてはならない。なぜならこれがあなたのともし火を燃やし続けるからである。

何でも求めることは、受けると信じなさい。そうすれば、それらはあなたのものとなる。へりくだった心をもって、約束を示しなさい。そして受けることを信じなさい。すべてに勝る名、わたしたちの救い主のみ名がわたしたちの保証であり大胆さである。神はご自身を祈りの聞き手としてわたしたちに示される。あなたがこのお方の選ばれた忠実な信頼できる者たちの一人であるという霊の証言を持つことができるように、神との正しい立場を保ちなさい。

サタンがあなたを落胆させるのを許してはならない。某M氏の手ではなく、神のみ手のうちに自分をゆだねなさい。祈りを実践しなさい。謙遜と柔和を培いなさい。あなたの魂を守ってくださるように神にゆだねなさい。あなたがすることすべてにおいて、聖霊に頼りなさい。なぜならこのお方がわたしたちの力であり、わたしたちの能力だからである。主は常に困難を通してわたしたちを訓練しておられる。祈りなさい、祈りなさい。常に祈りなさい。祈りのうちにすべて—あなたの仕事上の心配事、あなたの落胆、あなたの喜び、あなたの恐れを神におゆだねしなさい。

某N氏よ、このようにしなさい。そうすればあなたは神のご臨在を感じ、心からの感謝があなたの心と唇から讚美の声となって流れ出るであろう。あなたの心はやわらかくされ、あなたは心のうちに神への美しい調べを奏でるであろう。  
……

高い標準へと上りなさい。安っぽい話をほしいままにしてはならない。そうではなくあなたの唇からイエスの愛の表現が出るようにしよう。

神のみ言葉を扱うときは常に冷静で敬虔でいよう。言葉のタラントや声のタラント、また訓練し向上させるようにと与えられたすべての能力を正しく用いることには永遠の重要性がある。わたしたちは神に近づくことによって、そして神がわたしたちに近づかれることによって、言葉において清く、すべての会話の方法において聖であるべきである。(手紙 166, 1897年1月14日、働き人の夫婦へ)

## 助けが約束されている

「主は仰せられる、わたしの言葉は火のようにではないか。また岩を打ち砕く鎚のようではないか。」(エレミヤ 23:29)

主はご自分の子供たちに彼らの役割をよく果たすように、そして平和の与え主であられるキリストを通して互いに安らぐように望まれる。キリストが心に宿られるとき、全存在にあるその力は一致して調和のうちに働くのである。個人全体—その人の理性、愛情はどのように自分たちの役割を果たすかを知り一致して働くのである。王座につく王のように、理性は働く人体機械を支配する。

あなたの品性建設において多くの働きがなされる必要があるかもしれない、あなたは神の宮の場所を埋めるために適合される前に滑らかにされ磨かれるべき粗い石かもしれない。神があなたに用意された場所を占めるのに準備できるまで、神が金槌やのみであなたの品性の欠点を切り取られても驚く必要はない。人間はだれ一人この働きを達成することができない。それは唯一神によってなされることができ。このお方は不必要に一つも打たれることがないことを確信しなさい。このお方は打つときはいつもあなたの永遠の利益と幸福のために愛のうちに打たれる。このお方はあなたの弱さを知っておられ、滅ぼすのではなく回復するために働かれる。

なぜわたしたちは神の知恵から人間の知恵に向くのだろうか。神はわたしたちがこのお方に対して与える屈辱をご覧になる。このお方はわたしたちが人間の中にはわたしたちの悲しみへの慰めを見出すことがないことをご存知である。そして、わたしたちがこれほど欠乏しているのに、なおこのお方に自分の親友、また自分の重荷を負うお方になっていただこうとしないために、わたしたちを哀れまれる。このお方は人間が彼らに提供された愛とあわれみを軽蔑するのをご覧になり、「しかも、あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようともしない」と悲しそうに言われる(ヨハネ 5:40)。

わたしたちの不信はわたしたちのためにそれほど多くのことをなされたお方に対する侮辱である。このお方はご自分のもとにくる者たちをなおざりには決してなさらない。人を頼りにしても裏切られ忘れられることにうんざりした、あわれな今にも倒れそうな魂にキリストは「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」と言われる(イザヤ 27:5)。

キリストはご自分の民について古代のイスラエルについて言われたように言われることを望まれる。「あなたの美しさのために、あなたの名声は国々に広まった。これはわたしが、あなたに施した飾りによって全うされたからであると、主なる神は言われる」(エゼキエル 16:14)。(原稿 5、1901年1月15日、「いと近き助け」)

1月16日

## 宇宙の発電所

「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」(イザヤ 41:10)

イエス・キリストは世界で最も偉大な教師である。わたしはこの祝福された証拠を試し、本当であることを実証してきた。このお方は何千もの人々に大いなる霊的真理を伝えるためにわたしをご自分の使命者とされた。……何と大いにわたしは多くの人々がこのお方に導かれるように、このお方の命令を示したいと望むだろうか。わたしは決してこのお方の導きを疑わない。またわたしは弟子たちに行って福音のメッセージを宣べ伝えるように命じられた方によって支えられていることを知っている。「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ 28:20)。

1844年以降わたしは公の働きに携わってきた。わたしは常に主によって力づけられている。わたしは肉体的、精神的、霊的能力を与える上からの力がわたしに与えられていることを実感している。わたしはキリストがご自分の支える恵みと、このお方が世の光であるという証拠をわたしに与えてくださるという十分な確信を持っている。わたしはこのお方の力を認める。わたしは自分が生きている限りこのお方のためにわたしができるすべてのことをしたいと願う。わたしは落ち着いた完全な信頼のうちに、わたしの魂をかの日に至るまで神にゆだねたい。この地上におけるわたしの働きが終わったとき、わたしは休むだろう。イエスにあつて眠ることはわたしにとって何の恐れもない。復活の朝にわたしはこのお方の真の姿を見るだろう。……

わたしたちの魂が神と正しい関係にあるか確かめよう。そうすれば主がわたしたちを教え、導き、ご自分のみ旨を示してくださることができる。どうかこれらのことを考慮して下さるように。また祈りのうちに神と多く過ごそう。主はわたしたちの助け主であり力であり磐である。もしわたしたちが神とへりくだって歩み、このお方のみ名を恐れ、栄光を帰すなら、このお方はわたしたちの思いと心に宿られ、わたしたちはこのお方のみ姿に同化されるのである。わたしたちの心を熱心に探り、神だけが与えることができる知識を得ようではないか。

疑いは危険であることを覚えよう。もしそれを心に抱くなら、それは不信に導く。……わたしたちの民は皆、今聖霊のみ告げを求めよう。争いを始めることをせず、不和と論争を捨て去り、ヨハネ 17 章に記録されている祈りに答えることを求めよう。わたしはあなたに祈るように、心と魂と声をもって祈るように懇願する。(手紙 58, 1906年1月16日、ウォッシュバーン、プレスコット、ダニエルス、コロコード兄弟方へ)

## キリスト信仰のはかり

「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。」(マタイ 5:13)

責任ある地位に置かれている者たちは、実行の権威を持たなければならないが、彼らはこの権威を貧困で無力な者たちへの助けを拒む力として決して用いてはならない。それは決して一人のものがいて魂を落胆させたり意気消沈させたりするために使われるべきではない。影響力のある地位に置かれてきた者たちは、神が彼らにキリストの思いを実行するように望まれることを常に覚えていよう。

.....

真の信心はなされる働きによってはかられる。公言は無に等しい。地位は無に等しい。キリストの品性に似た品性が、神がご自分の御子を世に送られたという、わたしたちが担うべき証拠である。クリスチャンであると公言しながら、もしキリストが彼らの立場にあればなされるはずの行動をしない者たちは、神のみ事業を大いに傷つけるのである。彼らは自分たちの救い主を誤って伝え、偽りの旗の下にいるのである。

キリストが心の中に宿られている真の弟子は、キリストの人類に対する愛を世に示す。彼は神の手助けである。救い主から他の者たちへ与える恵みを受けながら、霊的健康の輝きは彼の全存在を興奮させる。.....

清く汚れない宗教は感情ではなく、愛とあわれみの働きをすることである。この宗教は健康と幸福に必然的なものである。それは墮落した魂の宮に入り、懲らしめにより罪深い侵入者を追い出す。王座を取り、それは心を義の太陽の輝かしい光線で照らし、すべてをその存在で聖別する。それは魂の窓を天へと開き神の愛の日光を入れる。それとともに穏やかさと平静がもたらされる。生ける活動的代理人としての天の雰囲気は魂を満たすので、肉体的、精神的、道徳的力が増す。.....

クリスチャンがキリストを表さないとき、彼らに何の価値があるだろうか。彼らは味の無い塩のようで「なんの役にも立たない」のではないだろうか。しかし彼らが自分たちの生活に、真理の救済の特性を表すなら、みじめな、罪で硬くなった魂が墮落のうちに滅びるがままに放っておかれることはないのである。良い働きが見られる。なぜなら義の生ける原則は隠されることがないからである。実行された福音は、ことごとく味を残した塩のようなものである。それは魂を救うにあたって力強いものである。(手紙 7, 1901年1月17日、責任ある地位を占めている兄弟方へ)

1月18日

## できるかぎりのことをしなさい

「霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務は種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなされる神は、同じである。」(コリント第一 12:4～6)

見たところ最も偉大な能力を所有しているように思える人々が、働きのある分野においていつも最も成功しているのではない。主はいわゆる能力の足りない人々を用いられる。彼らは雄弁ではないかもしれないが、もし彼らが神と一つになるならば、このお方は彼らを豊かに祝福される。心から直接出る彼らの飾らない堅実な言葉は、大いに価値のあるもので主によって評価されるのである。

主人の働きに関係している者たちは、彼らのために自分たちの働きをしてもらうためにもっと能力のある者たちを見ることのないようにしよう。神は最善を尽くす者を支援される。すべての働き人がこのお方の力により頼むようにしよう。そうすればこのお方は彼が働きかけている者の心を感銘させられる。成功は外見によるのではなく、自分に任務をお与えになったお方によるのだということを自覚している誠実でへりくだった働き人によって、多くの善が成し遂げられるのである。……

神は違った型がご自分の働きに置かれることを望まれる。人々が主に頼って働きに出るようにしよう。主は彼らと共に行かれ、魂に罪を自覚させ改心させられる。一人の働き人は準備ができた演説者かもしれない。ある者は準備ができた著者、他の者は誠実で、真剣で、熱心な祈りの賜物、他の者は歌の賜物を持っているかもしれない。他の者は神のみ言葉を明白に説明する特別な力を持っているかもしれない。そして神が働き人と共に働かれるので、それぞれの賜物は神のための力となるのである。ある者には神は知恵の言葉を、他のものには知識、ある者には信仰を与えられる。しかし、すべての者は同じ頭のもので働くのである。賜物の多様性は多様な働きをもたらすが、「すべてのものの中に働いてすべてのことをなされる神は、同じである」(コリント第一 12:6)。

だれもより重要ではないと思われている賜物を軽視することがないようにしよう。すべての者が働きに行くようにしよう。だれも自分は大きな働きはできないと考えて、疑いのうちに腕組みをすることのないようにしよう。自分を見ることを止めなさい。あなたの導き手を見なさい。誠実、柔和と愛のうちにあなたのできることをしなさい。……

神は真心のこもった働き人を必ず祝福される。もし主が働きをなされるためにあなたの足を選ばれるのなら、あなたの足をこのお方に捧げなさい。その足を持ってあなたは魂を探ることができる。(手紙 1, 1902年1月18日、都市における福音伝道に携わっていた S. N. ヘスケル長老と夫人へ)

## 一度に一日ずつ

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇 62:8)

わたしたち罪深く死すべき者が神と語る特権を持つとは何という特権であろう。部屋にいるとき、道を歩いているとき、働きに携わっているとき、わたしたちの心は勧告を求めて神のもとに昇っていくことができ、わたしたちの魂は天からの息吹である神を慕い求めるのである。これらすべての魂の願いを神は聞かれる。わたしたちのすべての困難を神のもとに持つていくことができる。このお方の無限の愛の手はわたしたちの必要を満たすために動かされる。わたしたちには一度に一日だけが生きるために与えられているということ、わたしはどれほど感謝していることであろう。わたしたちの魂を保ち続けるべき一日、見張るべき一日、霊的生活において向上すべき一日。そのようにわたしたちの日々はわたしたちにとって実り豊かな、尊い日となるのである。

わたしたちには果たすべき兵士の義務があり、獲得すべき勝利がある。なぜなら、サタンの方針について無知であってはならないからである。サタンがわたしたちに忍びより、祈りの必要、警戒と見張りの必要を忘れさせることがないように、わたしたちは祈り、それから見張るのである。

キリストの戦いにおいて、敵に目を光らせ、また自分自身にも目を光らせていない限り、サタンの罠にかかってしまう。わたしたちの安全はわたしたちの心の状態に依存している。神はわたしたちが自分自身に注意するように助けられる。そうしなければわたしたちは必ず天を失うであろう。正しいことから少しそれること、少しの無節制は今のところはわずかなことに思えるが、サタンは義と神から離れさせる進路にわたしたちを導くのである。わたしたちは自分たちの道ではなく神の道を求める。わたしたちはサタンを自分の足の下で砕くために全身の力をもって奮闘し、またわたしたちが神との正しい関係にあり、またわたしたちが不朽の相続へのはっきりした肩書きを持つていることを確認したいのである。

わたしたちが導かれ、案内され、神のみ旨によって支配されるためにへりくだって服従するようになる前に、すべてのものを取り上げられなければならないかもしれない。わたしたちはへりくだった、信頼に満ちている、幼子のような確信と、柔和、へりくだりを望み、うぬぼれではなくイエスにある謙遜な信頼を望んでいる。わたしたちはどのような品性の特性を培っているだろうか。永遠にまで永続するものだろうか。わたしたちの時間は忙しい活動のうちに費やされるが、わたしたちの魂は祝福されず、わたしたちの天父は栄光を受けられないのであろうか。永遠の命は一生の根気づよい不屈の努力の価値があり、わたしたちは行き当たりばつたりの働きをする余裕はないのである。わたしたちの魂の最高の利益が関わる時、わたしたちはイエスをわたしたちの心から離れた外庭においておく余裕はないのである。(手紙 81, 1887年1月19日、エドソンとエマ・ホワイトへ)

1月20日

## わたしの側にある天

「目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明る  
いだろう。」(マタイ 6:22)

今日のサタンの働きは、欺きの働きであり、また訴える働きである。主は彼  
が夜昼兄弟を訴える者であると宣言された。長年実行してきたために、サタンは  
自分の職業であるあらゆることに熟練しており、自分が利用できるすべての者たちを  
教育し、自分と一緒にこの働きをさせるのである。彼によって多くの者たちが欺  
かれており、サタンが開く道のうちを盲目的に進みゆくのである。

この地上の中心の力は悪魔である。彼の王座は神のみ座があるべき所である  
世の中央にある。彼は教会によって後援されてきた。なぜなら教会が世に妥協し、  
神の聖なる律法の不法のうちに存在しているからである。

キリストは破壊者の力から人を贖うためにご自分を与えられた。罪を負われる  
方になられることによって、このお方はサタンの力を破られた。このお方は「わた  
しは贖われた世界の中心となる」と言われた。……

「敵の力を破壊するために、すべての聖なる代理者たちを目に見えない敵の軍  
隊に対抗するために働きにつかせる。永遠の代理人である聖霊は人を罪の効力  
から救い、そのうちに神のかたちを回復するのである」と神は言われる。

主はできる限りすべてのことを彼らのためになされずに人間という宝をその頭  
であるキリストと共に、敵の列に入るままにされない。彼らの唯一の望みは神の  
戒めを行うことである。これがわたしたちの時代まで鳴り響いてきた福音である。

キリストはすべての者たちに「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたし  
のもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだ  
った者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、  
あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやしく、わた  
しの荷は軽いからである」という招きを送られている(マタイ 11:28～30)。す  
べて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさいというこの招きは長  
い間、世の混乱と困難を越えてはっきりとした調子で鳴り響いてきている。神は  
人を回復するための確固たる努力なしに、彼が自分の道と意思に従うままに見放  
され、失われるようにはされない。キリストの奉仕の目的、広大なあわれみと力  
の範囲は限度がない。(手紙 78, 1900年1月20日、ヘイスマー兄弟姉妹へ)

1月21日

## 最も輝かしく最上のもの

「わたしはあなたがたの年老いるまで変わらず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」(イザヤ 46:4)

わたしたちが年老いたとき、真理を長い間知ってきたわたしたちが霊や働きの方法において円熟し、またわたしたちが単純であるが重要で包括的な第三天使のメッセージを理解し、またわたしたちがこれらの真理を神の愛のうちに受け、他の者たちに与えるようにと切望している。……

毎日にキリストを着なさい。最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けなさい。主はあなたを見捨ててはおられない。このお方はあなたが恵みのうちに成長し、人々を助ける能力が増し加わることを望まれる。しかしあなたが彼らに興味を起させるなら、あなたはまっすぐ要点を話さなければならない。そして、自分が半分も話したかと思う前に止めなければならない。

わたしは、わたしたちの年老いた信者のだれか一人でも影響力と能力が減少するという考えに耐えられない。主はあなたが自分自身でできることをすべてすることにおいて、ご自分と協力することを求められる。もしあなたがこの働きにおいて心からこのお方と一つとなるなら、あなたの晩年は最も輝かしく最高の日々となる。……

あなたの魂の窓を天に向かって開き、地上に向かって閉じなさい。義の太陽の日光があなたの思いの部屋に入ってくるようにしましょう。キリストの柔和さと謙遜を培い、このお方のくびきを負い、このお方の重荷を負うことはあなたの前におかれている教訓であり、それはあなたとあなたが接触するすべての者たちに関わるのである。天の徳を培いなさい。すべての汚れからあなたを清めなさい。王族の一員として受け入れられるための適性を得なさい。

神のみ言葉からの指示は、建物の心配事のただ中であって、働き人たちの思いを恵みによって和らげ、彼らの働きを成し遂げる助けをするであろう。主が彼らの思いに感銘を与えてくださるとき、彼らは互いに最も尊い考えを捕らえるであろう。神のみ使いは〔シドニーの〕サニタリウムの敷地にいる。そうであるなら、働き人たちは自分たちの周りにいる人々にとって祝福となる言葉を語ろうではないか。わたしの兄弟よ、真理の愛において自分の持ち場を果たしなさい。神の生けるみ言葉として聖書信じる信仰を持ちなさい。(手紙 11, 1901年1月21日, オーストラリアで働いているM. G. ケログ博士へ)

1月22日

## 模範を眺める

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇 119:105)

神の働き人は模範をあたえられないで放っておかれてはいない。このお方は彼が従えば全世界に、天使にも人々にも彼を見せ物にする模範を与えられた。彼は無私の目標と目的を果たすことによって、神に栄光を帰すように命じられている。主は人の性質を理解され、彼の前に天の王国の律法を掲げられ、彼はそれを尊び従わなければならない。このお方は何が真理で、永遠の命を相続するには何をしなければならないかを示す手引書として、彼の手には聖書を置かれる。この本は一時的な関心から霊的眞実へと注意を引く。それは人に、彼が墮落し罪深いにもかかわらず、神の相続人としてまたキリストと共同相続人として天の宮殿で王子と王になることができることを教える。

神は地上の宝を蓄えようとする人の傾向がどんなに強いものかをご覧になる。そして、生命の大路や小道においてこのお方の声が「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか」と仰せになっているのが聞こえる(マルコ 8:38)。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである」(マタイ 6:19～21)。

神の使命者たちはキリストがこの地上におられたときになされたその働きを、取り上げるように任命されている。彼らはキリストが維持されたすべての奉仕に自分自身を捧げるべきである。真剣さと誠実さをもって彼らは人々に隠れた宝と天の朽ちることのない宝について話すべきである。彼らは聖霊によって満たされるべきである。彼らは天が提供している平和と許しを繰り返すべきである。彼らばいのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである」と言いながら神の都の門を指差すべきである(黙示録 22:14)。……

このお方はすべての者に各自の能力に従ってご自分のために働くことを要求なさる。人の働きは抑制されるべきではなく、聖別され正しく指導されるべきである。(原稿 27, 1907年1月22日「ニューイングランドの療養所」)

## 天の分け前

「あなたは真理のゆえに示そうとあなたを恐れる者のために一つの旗を立てられました。」(詩篇 60:4 英文訳)

いつ、いかなる場所においても、あなたの旗に真理が記されているようにしなさい。……

国としてユダヤ人はキリストを受け入れることを拒んだ。このお方は目に見えない無限の指導者として、彼らの旅において彼らを導かれた。このお方はご自分の御心を彼らに伝えられたが、彼らは自分たちの唯一の望みであり、唯一の救いであるこのお方を試みにおいて拒み、神も彼らを拒まれた。「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ 1:12)。この条件を受け入れ従うすべての者に、神の賜物は悔いることなく取り消されることなく絶えず流れる。神はご自分の賜物を遺伝によってまたは気まぐれな考え、生まれつきの衝動や傾向によってではなく、ご自分の御心によって人によって使われるようにと与えられた。……

神を恐れていた者たちは自分たちで考えるべきであった。彼らはもはや他の者に自分の代わりに考えてもらうように任せるべきではなかった。彼らの思いはもはや間違った原則、理論、教理に束縛されるべきではなかった。高さところにおける無知と悪徳、犯罪と暴力、抑圧は暴露されなければならない。命の光は道徳的闇の中にあって輝くためにこの世に來た。今福音は压制された貧しい者たちの間で宣べ伝えられるのであった。つましい生活をしている者たちに、神の御国に入るのに必要な真の資格を理解する機会が与えられるのであった。

そして今日下層階級にいる者たちは「前進しなさい」との命令に従うことにおいて彼らの場所をしめるべきである。信仰によって彼らは不信心な舌の論争や話にあえて譲歩することなく、困難に立ち向かうべきである。彼らはいつも祈りながら、また祈りに答える信仰を働かせながら、成功の一段階から次の段階へと前進するべきである。……

神の代理人は多くいるのである。しかし神のご計画に従って心から働くすべての者たちは「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である」というみ言葉に含まれているのである(コリント第一 3:9)。神の僕たちは靈の賜物が失われることのないように行動しなければならない。彼らの意志は保留されなければならない。そして神の時が訪れるとき、杖(つえ)は花を咲かせるのである。働きがどのような形になるか誰も知らないが、神の僕たちは彼らの指導者の道と御心を理解することができる緊急召集兵となるべきである。(手紙 8, 1899年1月23日, バトルクリーク療養所の医療最高責任者 Dr. J. H. ケロググへ)

1月24日

## このお方のうちにおいて完全

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

神はすべての者に道徳的完全を求められる。光と機会を与えられてきた者たちは、神の管理者として完全を目指すべきであり、決して先天的また後天的悪への傾向に適應するために義の標準を下げてはならない。キリストはわたしたちに神性を受けることによってこのお方のようになることが出来るということを示すために、わたしたちの人性をお取りになり、わたしたちの命を生きられた。わたしたちはキリストが人性において聖であられたように、聖となることができる。ではなぜこの世には好ましくない品性が多くあるのであろうか。それは彼らが自分たちの好ましくないやり方と荒っぽい不作法な言葉が、清くない心の結果であるとは思ってもよらないからである。……

わたしたちの神に対する愛を表すものはわたしたちの同胞に対する愛の香りである。魂に休みを与えるのは奉仕における忍耐である。イスラエルの繁栄が促進されるのは謙遜で勤勉で忠実な労働者によるのである。神はキリストの道を快く学ぶ者を支え力づけられるのである。……

すべての正しい考案と改善はすばらしい助言をあたえ働きにすぐれたお方に由来している。わたしたちがどんなことをしていても、わたしたちがおかれているどのような働きの分野においても、神はわたしたちを洗練し高尚にすることを望まれる。このお方は人が完全な働きをすることができるようにと、人の思いを支配することを望まれる。

医者手の繊細な接触、神経と筋肉の上にもっている彼の力、体の精巧な組織についての彼の知識は苦しんでいる人類のために使われるべき神の力の知恵である。大工が金槌を使う技術、鍛冶工が金の輪を作る力は神から来る。彼は人に力を委ねられ、このお方は彼らのご自分に助言を求めて仰ぐことを望まれる。このように彼らは、このお方の賜物を誤りのない才能をもって用いることができ、彼らがこのお方の共労働者であるということについて神の栄光を実証するのである。このように彼らは自分たちの魂を真理による霊の聖化によって清めるのである。彼らの経験において、キリストの言葉が成就される。心の清い人たちは神を見るであろう(マタイ 5:8 参照)。

すべての者は自分たちが大いなる終局に向かって働いていることを感じるべきである。すべての分野における働きは神のものであり、その働きを正確に、間違えることなくする者たちは神の完全を表すのである。(手紙 9、1899年1月24日、世界総会において重要な場所を占めている人たちへ)

## 神の旗手

「それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである」(マルコ 13:34)。

わたしたちのまえには偉大な働きがおかれている。全天はこの働きに関心を持っており、これに携わる者たちはインマヌエルの君の血染めの旗の下に立たなければならない。神はわたしたちの顔を前に向け、わたしたちの指導者のすべての動きを見張り、指令に従う用意が出来ているようにされる。すべての人にこのお方は働きを与えられた。神は男女に怠惰な熟考や発作的な感情に浪費されるためではなく、はっきりとした行動に用いるようにと能力をあたえられた。わたしたちの能力はあいまいに消耗されるべきではなく、無意味な大騒ぎに使われるべきでもない。外部にあるすべてのことは下から来る力によって動かされている。真理を知っている者たちは神ご自身から来る靈感によって満たされなければならない。魂のともし火は整えられ燃やし続けられなければならない。

わたしたちがする働きは、わたしたちに最も軽い働きである。わたしたちを疲れさせるのは、すべての活動に付着した罪である。神は労働が祝福になるようにということ以外には計画されなかった。人は何かすることなしに幸せになることはないのである。人が暗い責める思いを持っていなかったら、すなわち罪がもたらされる以前は、彼自身の交わりは重荷ではなかった。なぜなら彼は自然全体を最も満足できる結果と共に考えることができたからである。労働はみじめさをもたらすことはない。律法にかなうことを過度に行うことが、思いと体の力に負担をかけるのである。最も厳しい労働の生活は怠惰な生活より満足させるものである。

神のみ言葉はこの働きについて明白ではっきりとしている。神に改心した男女は働く者になる他には何にもならないのである。……

晚餐への最終の招きは今与えられている。魂のともし火は整えられ聖なる油によって補充されることによって燃やされ続けられなければならない(ゼカリヤ 4:11 ~ 14 参照)。主のみ名によってすべての魂が今すべての不義からはなれるようにさせなさい。そうしなければ、主の日が盗人のように彼らを襲うからである。真理ははっきりと率直に宣布されなければならないが、それは常にイエスのうちにあるように宣布されなければならない。(手紙 11, 1月25日 1899年「親愛なる兄弟」へ)

1月26日

## 天へのパスポート

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」(コリント第二 4:17, 18)

わたしはあなたとあなたの子供たちに向かって書く。わたしはこの度のあなた方の悲しみについて同情する。もしわたしがあなた方と共にいたらわたしはあなた方を慰める言葉を語ることが出来るのだが、そうでないのでわたしはただ数行だけ書き、あなた方の苦悩においてわたしがあなた方を忘れていないことを知らせることしかできない。……

わたしたちはこの世の歴史の黄昏に生存しており、わたしたちは彼らが憤りの過ぎ去るまで少しの間隠されていることを知りながら、わたしたちの死んだ者たちを葬ることが出来る。わたしたちは希望のない者たちのように彼らのために嘆く必要はない。なぜなら彼らの命は神にあってキリストと共に隠されているからである。わたしたちには喜ぶすべての理由がある。……

キリストを着て、このお方の戒めに従う者たちが耐えなければならない困難は、キリストが計画されたものではない。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」とこのお方は仰せになる(マタイ 16:24)。知的な魂の義務は、真理を固守し、徳を実践することである。わたしたちは生来両方に対して気が進まない者である。従順、愛、優しい精神、また挑発されることのない忍耐など、神の前によみせられる徳に反するものを人の持つ気質の中に見いだすことは悲しいことである。子供たちよ、わたしはまったく弱い、神はわたしの力である。このお方はわたしに義務の地位を与えられた。わたしが仕える將軍は勝利者になるように命じられたと自らに言いなさい。……

あなた方の家族の輪に入ってきた苦悩があなた方皆に祝福となるようにしよう。わたしたちの親愛なる姉妹、あなた方の母はイエスを愛していた。彼女の戦いは終わった。あなた方は彼女が希望のうちに休んでいることを覚えるべきである。「わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう」(コロサイ 3:4)。聖霊の平和と慰めがあなた方の心の中に入ってくるようにしよう。イエスが榮譽ある客とし入られるようにあなた方の心の扉を開けなさい。そしてあなた方は慰め主を持つのである。「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」(ヨハネ 15:12)。生きている者たちの心が互いに近づくようにしよう。各自が他の者にとって妨げではなく祝福となるようにしよう。……

人の子の到来のために準備しよう。神に真実になろう。そしてわたしたちは命の冠を受けるのである。(手紙 10, 1898年1月26日、ヘアー兄弟へ)

## 一步を踏み出す

「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧め。みな語ることを一つにして、お互い間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。」(コリント第一 1:10)

昨晩わたしは一致していない多くの人々の前に立っているように思えた。ある者は後ろに立ち他の者は前進することを望んだ。彼らは互いに一致して立っていなかった。わたしは天の存在者が彼らの前に現れ、そして彼が「列に並びなさい。だれも戦いを自分の指令によって戦っているのではない。衆軍の主が、整列するようにと仰せになっているのである」と言っているのを聞いた。

このあと、わたしは再び眠らなかつた。わたしはこの集まりにおいてわたしたちの兄弟たちが列に並んだかどうか思いをめぐらせた。働き人たちの大きなグループにとって互いに全面的に一致することは、しばしばとても難しいことであるが、各自は列に並び自分に指定された場所を埋めるべきである。神がご自分の僕たちにこれを行うように助けてくださるようというのがわたしの祈りである。

ある者たちは一時のあいだ自分たちの道に従ってきたかもしれないが、彼らが戻ってきて、隊列に加わることは可能である。主はご自分の子供たちが思いのままに事を行うことを許され、また自分たちといく分違った物事の見解をもつ兄弟たちと一致することを拒むことを許されることは、彼らにとって最善ではないことをご存知である。

自分自身の道を捨てる招きに直ちに答えず、神の道に一致しない者たちがいる。彼らは自分たちが選ぶ道に従うことを好む。そのようにすることを願う者たちは、彼ら自身の聖別されていない道に歩み続ける特権を持っているが、その道の終わりは悲しみと滅亡である。

主は彼らが神のよしとされることに従って用いられることを許す限り、ご自分の働きにおいて用いられるご自分の選ばれた人々を持っておられる。このお方は他人を低めようとしている者は決してお用いになることができない。兄弟方よ、自らを低くしなさい。あなた方がこれをするとき、聖天使があなた方と交信し、あなたを有利な位置に置くことを可能にする。そのとき、あなたの経験は、欠陥のあるものではなく、幸福に満たされたものとなるのである。あなた自身を神の導きとの一致のうちに合致することを求めなさい。そうすればあなたはこのお方の聖霊の感動に敏感になるのである。

主は来られる。すべての事柄の終わりは間近である。品性を発達させるための時間は少ししか残っていない。(原稿 47, 1910 年 1 月 27 日「列に並ぶ」)

1月28日

## 主よ、あなたはすべてをご存知です

「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ 6:12)

この集会〔太平洋連合総会の二年毎の集まり〕に来る時から、わたしは不思議な経験をした。ある日、皆さんにある事を読もうと総会の前に出た後、わたしの魂の上にあった重荷はわたしが自分の部屋に戻った後もそのままのしかかっていた。わたしは思いの悩みのうちにあった。その夜わたしは眠ることができないように思われた。それはあたかも悪天使がまさにわたしがいたその部屋にいるかのようにであった。そしてわたしが思いの中で苦しんでいた間、それはあたかもわたしが非常な肉体の痛みで苦しんでいるかのように思われた。数年の間ほとんどいつも病氣と苦しみから守られてきたわたしの右腕は力がないように思われた。わたしはそれをあげることができなかった。それから最も激しい、耐え難いほどの痛みが耳の中に走った。次に最もひどい苦しみがあごにきた。それはあたかもわたしが叫ばなければならないように思われた。しかしわたしは「主よ、あなたはこれについてすべてをご存知です」と言い続けた。

わたしはこの上ない苦痛のうちにあった。それはわたしの頭とわたしの体のすべての部分が苦しんでいるように思われた。そのときわたしは起き、「わたしはもう一瞬もここに横たわることをしない」と思うのであった。それから、「あなたは家の中にいる者たちを起こすだけで、彼らはあなたのために何もすることができない」と思うのであった。「そしてわたしは主を見続け、「主よ、この痛みについてすべてをご存知です」と言っていた。あるときはあごに、そして頭に、そして体のほかの部分において、ほとんど朝日が出るまで苦悩は続いた。夜明けの直前にわたしは一時間ほど眠った。

今朝わたしの腕は問題ない。悪天使の大群がその部屋にいたのであって、そしてもしわたしが主に信仰によってつかまっていなかったら、わたしはどうなっていたかわからない。……

わたしはあなたにその部屋で働いていた悪魔的な力について描写することは決してできないが、……次の朝あなたの方の前に立ってから、わたしは何の苦しみもない。

神の霊の明白な感動をより多く持っていなければ、またわたしたちの中で神の力のより大きな表れがなければ神の民の多くの者たちは克服されるのである。サタンの代理人たちはわたしにやって来たように、やって来るであろう。しかしわたしたちは敵の力に屈する余裕はないのである。(原稿 25, 1910年1月28日「太平洋連合総会に集まった働き人たちへの呼びかけ」)

1月29日

## クリスチャンの休み

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:29)

あなたがた[アディー・ウォーリング]はわたしにとって自分の子供ようである。わたしはあなたが六歳のときから数年の間母親の義務を果たした。あなたはわたしの生涯と織り合わされ、わたしの一部となり、そしてもしあなたが困難にあるとき、何かあなたに足りないものがあるとき、またあなたが資金を必要としているときに、あたかもわたしがあなたの母であるかのように、わたしのもとに来てほしいと願っている。

わたしはあなたがた〔をわたしの子供として養子にした目的を理解してほしいと望んでいる。それは、あなたがた二人が有益な女性となり、イエスがご自分を愛する者たちのために用意しに行かれたすまいのために品性を形作る子供となるのを見ることである。わたしはあなたがこれをあなたの生涯の目標、目的とし追求とすることを大いに願っている。この品性建設は最も重要な働きである。それはこの生涯で終わってしまうものではなく、将来の生涯において分かるものである。ここにおいてキリストの功績と恵みを通してあなた自身がどのような者になるかは、永遠にわたってそのまま維持されるのであり、わたしはこの上なく真剣にあなたが低い標準に満足するべきではないと願っている。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」とキリストは仰せになっている。キリストが与えられる平安は決してそれと共に悲しみをもたらすことがない。……

慎んで目を覚まし祈りなさい。批判的にあなた自身を吟味し真剣な働きをしなさい。誠実になりなさい。神と聖天使たちの前にいること、主が喜ばれ誉れと栄光を受けられるべきであるということをいつも感じなさい。……

アディー、高潔な女性、誠実なクリスチャンになることをあなたの目標としなさい。心に真理を持ちなさい。わたしはあなたが自分自身で救い主の愛の尊さを知ることが望む。もしイエスがあなたのうちに栄光の望みとなられるなら、確かにあなたはこのお方を語るときキリストを表すようになる。もしこのお方の平安があなたの心のうちにあるなら、あなたは確かに同じものをあなたの言葉とあなたの行動に表現するのである。自分に忠実になり謙遜になりなさい。話において出しゃばることなく、慎ましくありなさい。決して自分自身をほめることなく、自分については考えることを少なくし、また自分について語ることを少なくしなさい。そして、あなたのすべての重荷をイエスにおきなさい。あなたが永遠の命を獲得するために主が助けてくださるように。……多くの愛を込めて、あなたのエレンおばさん

(手紙 92, 1886年1月29日、彼女の姉妹メイと共にエレン・ホワイトが自分の家で育てた姪の娘アディー・ウォーリングへ)

1月30日

## あなたの状況は絶望的ではない

「わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。」(イザヤ 66:2)

あなたはわたしの前に疑いと絶望の中にいる者として示された。キリストはあなたについてペテロに言われたように「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけてを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」と言われる(ルカ 22:31、32)。わたしはあなたに良い知らせを持ってきた。嵐に揺らされている魂よ、イエスはあなたを愛しておられる。サタンがあなたに信じ込ませようと努力しているけれども、あなたは信仰の挫折をしていない。仰いで生きよ。キリストのもとにそのままの状態で行きなさい。このお方をあなたの個人的救い主として受けなさい。

あなたは間違いを犯したが、故意にしたのではない。あなたは試みによって引き離されたのである。多額の財産があなたの思いを夢中にさせあなたの判断をゆがませたのである。あなたは財産を神の栄光のためにどのように賢く用いるかを理解しなかった。しかしあなたは財産をこのお方のみ事業とこのお方の栄光のために使われる場所に投資した。わたしの兄弟よ、あなたはあなたができたはずであり用いるべきであったすべての知恵を表すことをしなかったが、神はあなたがこのお方の栄光の進展を願ってなしたすべてのことを受け入れられる。……

これらのみ言葉があなたのためにわたしの前に示された。贖いを通して「イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」(ヘブル 2:17)。悔い改めている罪人は自分の個人的救い主としてキリストのうちに信じるべきである。これが唯一の望みである。彼はキリストの血の功績をつかみ、十字架につけられ、よみがえられた救い主を自分の価値として神に示すことができる。このように罪ある者のために捧げられた罪なきキリストご自身の捧げ物を通して、すべての困難は取り除かれ、神の許す愛は墮落した人間に対するあわれみの豊かな流れのうちに流れ出るのである。……

ただイエスのもとに今、今日といううちに来なさい。あなたが通ってきた経験は、あなたが神との共労者となるために、キリストと共にくびきにつながれたときあなたにとって最高の価値があることが分かるであろう。あなたは真理のうちに喜び、あなたは真理を信じ、またそれを信じており、聖霊があなたと共に苦闘しているので望み得ないことを望むことができる。

あなたは試みのためにあなたの足に曲がった道を作ったが、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば彼はあなたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。(手紙 91、1月30日、裕福な SDA のビジネスマンへ)

## 神があなたと共に働かれる

「わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。」(創世記 18:19)

わたしはあなたを元気づけ、慰めるために言葉をしたためる。主はあなたを去られなかった。このお方の永遠のみ腕はあなたを下で支えている。このお方はクリスチャン生涯において最も価値のある経験を与えられた。あなたは自分の家族の中において光を輝かしてきた。そして、その神聖な光線を感じることができる。しかしあなたの子供たちに対するその愛情のゆえに、あなたは自分の判断力が子供たちの最善のためともならず、また神の栄光のためにもならないとわかっている要求に応じてしまいかねない危険性がある。

あなたは選ばれた器であり、あなたを通してこのお方は働かれ、そしてあなたの子供たちの魂の救いのために働かれる。あなたはキリストが愛されたように互いに愛するというキリストの言葉を繰り返すことによってヨハネが担った証を担わなければならない。聖霊はキリストとの結合を証し、信者と未信者たちはあなたがキリストと共にいて、このお方に学んだことを認めるのである。あなたが主を知ることを求め続けるとき、あなたはキリストの品性を反射するのである。

あなたは人間の弱さのもとにおり、疑いもなく間違いを犯すのであるが、あわれみ深く愛なる救い主はあなたが求めるので、またあなたがイエスを愛するのであなたのすべての間違いを許される。心の中であなたはキリストの柔和を呼吸し、あなたの家庭において光となるのである。あなたの会話は恵みによって味付けられ、聖なる承認はあなたの祈りに充満するのである。主は過去にされたようにあなたの努力と共に働かれ、このお方の義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたの報いとなる。

あなたには神の愛なる親切とあわれみ深い慈しみのために神をほめ讃えるすべての理由がある。このお方のすべてを贖う血はあなたのすべての子供たちに用意されている。もしあなたがあなたの肉体的な力を酷使しないならば、あなたはイエスの名によって多くの尊い働きをすることができる。……それだから信じるあなたにとって、このお方は尊いお方なのである。……愛する子供として愛のうちに歩きなさい。神の霊は子供たちに対して奮闘し、「さあ、おいでください。もう準備ができましたから」と言って彼らをキリストに招いている(ルカ 14:17)。あなたは従わないだろうか。(手紙 94、1895年1月31日、成人した子供たちのいる大家族の未亡人の母親へ)

## 研究 1

### 清めの特別な働き



### 清めの特別な働き

—聖所と調査審判と関連して—

今月から、清めの特別な働きを研究していきます。

「きよめるかた」（ヘブル 2:11）は今、天の聖所でその働きを続けておられます。「天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである」（各時代の大争闘下巻 222）。そして、「天の記録に記されている神の民の罪を除く、あるいは消し去るといふ、天の大祭司の奉仕における最後の働き」には、「調査の働き、審判の働きが含まれてい」ます（各時代の争闘下巻 46）。

この働き、すなわち「キリストが……天の雲に乗って来られる直前に起こる」重大な働きを学んでいきましょう（同上）。

#### 研究の中心的思想：

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。ひとりびとりの魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、かずかずの書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分たちの分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要なことであろう。」（各時代の争闘下巻 222）

#### ■聖所

「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」（出エジプト記 25:8）

はじめから、聖所の目的は変わることはありませんでした。この目的のために今も聖所で働きがなされているのです。

## ■ 調査審判

### ダニエル 7 章

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない」(13, 14 節)。

「ついに日の老いたる者がきて、いと高き者の聖徒のために審判をおこなった。そしてその時がきて、この聖徒たちは国を受けた。……その後にもまたひとりの王が起る。……彼は、いと高き者に敵して言葉を出し、かつ、いと高き者の聖徒を悩ます。彼はまた時と律法とを変えようと望む。聖徒はひとりと、ふた時と、半時の間、彼の手にわたされる。しかし審判が行われ、彼の主権は奪われて、永遠に滅び絶やされ、国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる」(22-27 節)。

このように「いと高き者の聖徒のために」審判が行われ、神が人類にお与えになった国と主権を横領した敵はその主権を奪われ、「人の子」がそれを受けられます。そして、ついにこのお方の「聖徒」たちに戻されるのです。

またその聖徒のための審判がマタイ 22 章の婚宴—「婚宴は、キリストがみ国をお受けになることを意味している」(各時代の争闘下巻 143)—譬の中で説明されています。

### マタイ 22 章

「イエスはまた、譬で彼らに語って言われた、『天国は、ひとりの王がその王子のために、婚宴を催すようなものである。王はその僕たちをつかわして、この婚宴に招かれていた人たちを呼ばせたが、その人たちはこようとはしなかった。そこでまた、ほかの僕たちをつかわして言った、「招かれた人たちに言いなさい。食事の用意ができました。牛も肥えた獣もほふられて、すべての用意ができました。さあ、婚宴においでください」。しかし、彼らは知らぬ顔をして、ひとりには自分の畑に、ひとりには自分の商売に出て行き、またほかの人々は、この僕たちをつかまえて侮辱を加えた上、殺してしまった。そこで王は立腹し、軍隊を送ってそれらの人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。そ

れから僕たちに言った、「婚宴の用意はできているが、招かれていたのは、ふさわしくない人々であった。だから、町の大通りに出て行って、出会った人はだれでも婚宴に連れてきなさい」。そこで、僕たちは道に出て行って、出会う人は、悪人でも善人でもみな集めてきたので、婚宴の席は客でいっぱいになった。王は客を迎えようとしてはいつてきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、彼に言った、「友よ、どうしてあなたは礼服をつけなくて、ここにはいつてきたのですか」。しかし、彼は黙っていた。そこで、王はそばの者たちに言った、「この者の手足をしばって、外の暗やみにほうり出せ。そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」。招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない」(マタイ 22 章 1-14 節)。

### ■大祭司キリストの立場と働き

「さて、わたしたちには、もろもろの天をとおって行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか」(ヘブル 4:14)

「大祭司なるものはすべて、人間の中から選ばれて、罪のために供え物といけにえとをささげるように、人々のために神に仕える役に任じられた者である。彼は自分自身、弱さを身に負っているので、無知な迷っている人々を、思いやることができると共に、その弱さのゆえに、民のためだけではなく自分自身のためにも、罪についてささげものをしなければならぬのである。かつ、だれもこの榮譽ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。同様に、キリストもまた、大祭司の榮譽を自分で得たのではなく、『あなたこそは、わたしの子。きょう、わたしはあなたを生んだ』と言われたかたから、お受けになったのである。また、ほかの箇所でもこう言われている、『あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である』。キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈と願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞きいれられたのである。彼は御子であられたにもかかわらず、さまじまの苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり、神によって、メルキゼデクに等しい大祭司と、となえられたのである」(ヘブル 5:1-11)。

「その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのである」(ヘブル 6:20)。

「そしてこの事は、メルキゼデクと同様な、ほかの祭司が立てられたことによって、ますます明白になる」(ヘブル 7:15)。

「このようにして、イエスは更にすぐれた契約の保証となられたのである。かつ、

死ということがあるために、務を続けることができないので、多くの人々が祭司に立てられるのである。しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変らない祭司の務を持ちつづけておられるのである。そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。このように、聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつ、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである。彼は、ほかの大祭司のように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために、日々、いけにえをささげる必要はない。なぜなら、自分をささげて、一度だけ、それをされたからである」(ヘブル 7:22-27)。

「以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである」(ヘブル 8:1, 2)。

「しかしキリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこれたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとおり、かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわぎを取り除き、生ける神に仕える者としないうか」(ヘブル 9:11-14)。

「大祭司は、年ごとに、自分以外のものの血をたずさえて聖所にはいるが、キリストは、そのように、たびたびご自身をささげられるのではなかった。もしそうだとすれば、世の初めから、たびたび苦難を受けねばならなかったであろう。しかし事実、ご自身をいけにえとしてささげて罪を取り除くために、世の終りに、一度だけ現れたのである」(ヘブル 9:25, 26)

この大祭司の立場と働きをよく理解することが、わたしたちの信仰の基礎であり、この信仰を働かせるとき、この働きにあずかる者となります。

## ■ 審判が始まり、かずかずの書物が開かれる厳粛な時

「わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座しておられた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座は火の炎であり、その車輪は燃える火であった。彼の前から、ひと筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、審判を行う者はその席に着き、かずかずの書き物が開かれた」(ダ

ニエル 7:9, 10)。

## ■定められた日の終わり

「定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう」(ダニエル 12:13)

預言者ダニエルは聖所の奉仕を示された後で、このように言われました。ですから、この真理を正しく理解し、その働きにあずかることはわたしたちの永遠の運命に関わるのです。

「天の聖所における奉仕の正しい理解が、わたしたちの信仰の基礎である」(手紙 208 (1906 年))。

「われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばきの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。……」(各時代の争闘下巻 369)

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。神の恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ(ダニエル 7:9-10,13, 22)、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に(ダニエル 8:14、使徒行伝 3:19)、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない(ダニエル 12:10、黙示録 7:14)。この働きは、黙示録 14 章のメッセージの中にさらに明瞭に示されている」(各時代の争闘下巻 140, 141)。

来月より、これらの預言を次の主題に集中して、学んでいきます。

主題：

1. 罪人に示された聖所(創世記から黙示録まで)
2. 大贖罪の日における大祭司の立場と働き(聖所の清めと民の清め：レビ 16 章と 23 章)
3. 清めの特別な働き—地上の民の間で行われる罪の除去(レビ記 23 章、民数記 29:7-11 参照)
4. 黙示録 14 章の中でさらに明瞭に示された働き

(50 ページの続き)

われわれにふさわしいことである」(マタイ 3:14,15)。

このお方がこう言われると、このお方のみ顔にシメオンが見たのと同じ天の光が見られました。

そこでヨハネは美しいヨルダンの水の中にこのお方を導き、彼はすべての人が見ている前でこのお方にバプテスマを授けました。

イエスさまはご自身の罪の悔い改めを表すためにバプテスマを受けられたのではありませんでした。なぜなら、このお方は一度も罪を犯されたことがなかったからです。このお方はわたしたちに模範を残すためにそうされたのでした。

このお方は水から上がられたとき、川岸にひざまずいて祈られました。その時、天が開けて栄光の光が輝き出ました。「すると、見よ、天が開けて、神の御霊がはどのようにご自分の上に向かって来るのをごらんになった」(マタイ 3:16)。

このお顔とお姿、すべてが神さまの栄光の光であかあかと輝いていました。そして天からの神さまのみ声が次のように言われるのが聞こえました。「これはわたしの愛する子、わたしの心になうものである」(マタイ 3:17)。

キリストの上にとどまった栄光は、わたしたちのための神さまの愛の保証です。救い主はわたしたちの模範として来られました。ですから、神さまはこのお方の祈りを聞いてくださったのと同じように、たしかにわたしたちの祈りをも聞いてくださるのです。

もっとも貧しい人、もっとも罪深い人、もっともさげすまれている人は、お父さまのみもとへ行くことができます。わたしたちがイエスさまのみ名のうちにこのお方のみもとに行くとき、イエスさまに語られたそのみ声は、わたしたちにも「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなうものである」と言われるのです。

## 柚子まるごと煮

### ■材料

柚子 3つ

粗糖 半カップほど（お好みで）

### ■作り方

1. ピーラで皮をむきます。
2. 柚子を四等分に切ります。
3. 種をぬぎ、汁は湯豆腐などに利用します。
4. 鍋に切った柚子を入れ、ひたひたの水で火にかけて茹でこぼし、水をかえて二度繰り返します。
5. 茹でこぼした柚子に水を少々入れて適量の砂糖を入れ、皮が軟らかくなるまで30分煮ます。
6. そのまま、一晩おき、翌朝10分ほど火にかけて、できあがりです。

四等分にしたものを二つにまるめて折ると綺麗です。

そのまま冷凍保存ができますからそれを細切りにしたりして召しあがれます。

※ 砂糖の量はお好みで、ピューラで剥いた皮は細切りにして冷凍保存していつでも使えます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

## 第13話 バプテスマ

キリストの公生涯のための時期がおとずれたとき、このお方の最初の行為はヨルダン川に行き、バプテスマのヨハネからバプテスマを受けることでした。

ヨハネは救い主のために道を備えるためにつかわされていました。彼は荒野で宣べ伝えて言いました。

「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ 1:15)。

群衆が彼の言葉を聞くためにおしよせました。多くの者は自分たちの罪を自覚させられ、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けました。

神さまはヨハネに、いつの日かメシヤが彼のところに来て、バプテスマを受けさせてほしいと頼むことを知らせておられました。このお方はまた、それがだれであるかがわかるように、彼にしるしが与えられることを約束しておられました。

イエスさまが来られたとき、ヨハネはこのお方のお顔に、その聖なる生活のしるしをみとめたので、彼はこのお方を押しとどめて、言いました。「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしの

ところにおいてになるのですか？」

「しかしイエスは答えて言われた、今は受けさせてもらいたい。このようにすべての正しいことを成就するのは

